# 2023.12.3 とめよう！原発依存社会への暴走
# １万人集会

## ●集会プログラム

12：30～12：55 オープニング ライブ → ①「月桃の花」歌舞団
② Swing Masa / Womyn's Parade
③ 福井のうたごえ
④ 屋台の珈琲

13：00　開 会

◆ 司　会　林 広員（オール福井反原発連絡会）
◆ 主催者あいさつ　中嶌 哲演（原子力発電に反対する福井県民会議）
◆「原子力回帰は許されない」 大島 堅一（龍谷大学教授）

■ 全国から
◇青森 / 核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会
◇新潟 / さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト
◇首都圏 / とめよう！東海第二原発 首都圏連絡会
◇福井 / オール福井反原発連絡会
◇愛知・岐阜 / 老朽原発 40 年廃炉訴訟市民の会
◇四国 / 伊方から原発をなくす会
◇上関 / 原発いらん！山口ネットワーク
◇川内 / ストップ川内原発！ 3.11 鹿児島実行委員会

◆ ポテッカーを掲げるアクション

■ 参加政党の紹介

◆ カンパアピール
◆ 原発事故被害者　福島県郡山市住民

■ 関西の市民団体から
◇滋賀 / 原発のない社会へ 2024 びわこ集会実行委員会
◇大阪 / 原発ゼロの会・大阪
◇大阪 / ストップ・ザ・もんじゅ
◇兵庫 / 原発をなくし自然エネルギーを推進する兵庫の会
◇奈良 / 原発ゼロ・被災者支援奈良のつどい実行委員会

■ 労働組合から
◇フォーラム平和・人権・環境
◇全国労働組合総連合（全労連）近畿ブロック
◇おおさかユニオンネットワーク

◆『集会宣言』提案と採択　木原 壯林（老朽原発うごかすな！実行委員会）
◆ デモの説明

14：30 閉 会 ⇨ デモのスタート

# ●特別メッセージ

## 岸田政権の原発回帰を許してはならない

龍谷大学教授　大島 堅一

岸田政権は、グリーントランスフォーメーション（GX）の名の下に、原発の再稼働促進に加えて、老朽原発の運転期間延長（60 年超運転）、原発新設を進めようとしています。その名目としてあげられたのが、温暖化防止です。

しかし、事故の危険性、放射性廃棄物の発生、放射能汚染を含めれば､原発は最悪の環境破壊型電源です。また、原発は温暖化対策としても非常に劣っていることがわかっています。原発は、省エネや再エネ等に比べてコストが非常に高く、世界的に推奨されていません。

電気代の面でも、原発は電気代を下げるどころか、原発事故後 30 兆円を超える資金が、原発に投じられおり、見えない形で大きな国民負担になっています。原発は、経済を良くするのではなく、悪化させています。

安倍政権、菅政権においてすら、原発新設、運転期間延長は否定されていました。岸田政権が進める原発回帰政策を許せば、日本経済、社会は取り返しの付かない状況に追い込まれるでしょう。

一歩一歩原発ゼロ社会を拓いていきましょう。

# ●政党からのメッセージ　（政党名 50 音順）

## メッセージ

参議院議員・社民党副党首　大椿 ゆうこ

参議院議員・社民党副党首の大椿ゆうこです。「止めよう! 原発依存社会への暴走 1 万人集会」の開催に、心からの連帯のメッセージを送ります。

福島第一原発事故の後、2012 年に原子炉等規制法が改正され、原発の運転期間が 40 年に制限されました。1 回に限り 20 年を超えない期間の延長ができるという例外規定はありましたが、これが適用されるのは「例外中の例外」とされ、段階的な脱原発がはじまったかのような議論もありました。

しかし、舌の根も乾かぬ 2016 年に高浜 1・2 号機の運転期間を延長したのに続いて、次々と「例外」が認められ、すでに 6 機の運転期間延長が認可されています。そればかりか今年の 5 月には「GX 脱炭素電源法」が成立し、60 年を超える運転までが可能となりました。このような露骨な方針転換には、「騙された！」という怒りがこみあげるばかりです。

かつて、原発は多重防護と最新の技術で守られていて安全と言われました。しかし、現在国内最古の高浜 1 号機の設置許可は 1969 年末です。半世紀以上前の技術水準で設計された老朽設備に、放射能の安全を託すことはできません。地震や津波の多発する日本での 60 年超え運転は、放射能のリスクを高め、子々孫々にまで核のゴミを残すだけの愚行です。

この集会が成功し、みなさまの闘いが前進することを心からお祈りします。大椿ゆうこもともに闘っていく決意です。

核と人類は共存できない！

## 12.3「とめよう!原発依存社会への暴走 1 万人集会 メッセージ

新社会党近畿ブロック会議 議長、茨木市議会議員　山下けいき

本日の集会に大阪、関西、全国からご参加の皆さんに心から敬意を表します。

岸田政権は、今年に入って原発推進関連法を成立させ、稼働が「原則 40 年だったものを 1 回に限り特例で 60 年間に延長」をさらに際限のないものに改悪しました。これによって最も古い高浜原発 1 号機をはじめとして老朽原発が次々と再稼働し、破滅めざして運転していくことになります。危険な老朽原発を次々と再稼働することは国民の生命を軽視し危険にさらす行為にほかなりません。

加えて、8 月 24 日には福島第一原発事故によって生じた放射能汚染水の海洋放出を開始しました。これ

は 2015 年に政府と漁業者が結んだ「関係者の理解なしにいかなる処分もしない」との約束を反故にするものであり、福島県漁連、全国漁連をはじめ、世界の人々の反対の声を踏みにじった暴挙です。

核燃料サイクルは破綻、使用済み核燃料の処分方法や持ち込み先も何も決められないままです。福島第一原発の過酷事故から何も学ばず、廃炉の見通しもないまま、ひたすら原発を推進する姿勢は到底許されるものではありません。

2011 年の原発事故後の「さようなら原発 1000 万人アクション」の呼びかけ人で、今年亡くなられた坂本龍一さんは「たかが電気のために、なんで命を危険にさらさないといけないのでしょうか」と訴えてきました。

死の直前には東京新聞に寄稿し「人々の記憶は薄れているかもしれないけれど、いつまでたっても原発は危険だ。いやむしろ時間が経てば経つほど危険性は増す。」「世界一の地震国で国民を危険にさらし、自分たちの首もしめるというのに、そこまで執着するのはなぜだろう。なぜこの国を運営する人たちはこれほどまでに原発に固執するのだろう。」と問いかけています。遺言ともいうべき坂本さんの言葉に私たちも応えていきたいものです。

私たち、新社会党はここにお集まりいただいた皆さん、全国で闘っている皆さんとともに老朽原発はもちろんのこと、すべての原発を廃炉に追い込み、将来の子孫が安心して生きられる社会にしていくために尽力することを申し上げ、連帯のあいさつといたします。

## 「とめよう！原発依存社会への暴走１万人集会」へのメッセージ

**日本共産党 衆議院議員 こくた 恵二、衆議院議員 宮本 たけし、参議院議員 山下 よしき**
**元参議院議員 たつみ コータロー、京都府常任委員 堀川 あきこ**
**前衆議院議員 清水 ただし、　　兵庫県常任委員 こむら 潤**

集会ご参加のみなさん、日本共産党です。皆さんが「今こそ人類の手におえない原発を全廃し、人の命と尊厳が大切にされる社会の実現に向かって、目に見える行動、耳に聞こえる行動」に日々奮闘されていることに敬意を表し連帯のメッセージを送ります。

いま、岸田・自公政権の支持率が急落しています。その根底には自民党政治への国民の怒りと不信があります。原発問題では、岸田政権は「可能な限り原発依存度を低減する」としてきた自らの立場を投げ捨て、公明党、日本維新の会、国民民主党とともに、原発の運転期間を原則 40 年、延長しても 60 年と定めた規定を改悪し 60 年超運転を可能とする法律を成立させる暴挙を行いました。また、原発再稼働のために、巨額の設備改修費用を消費者全体に負担させようともくろむなど、国民の怒りが広がっています。

日本共産党は 11 月の国会でも、「全国の原発の再稼働も、中間貯蔵施設建設計画もきっぱりやめ、『原発ゼロ』の決断、省エネ、再エネへの転換こそすべきだ」と政府を厳しく追及しました。

異質の危険をもち、最悪の高コストで、「核のゴミ」を増やし続け、再エネ普及を妨害する原発頼みをただちにやめ、脱炭素・原発ゼロの日本をつくることが今こそ必要です。「原発依存社会への暴走を」止めるために、力を合わせる決意を述べてメッセージと致します。ともにがんばりましょう。

## 「とめよう！原発依存社会への暴走　１万人集会」に参加されたみなさんへ

**緑の党グリーンズジャパン大阪府本部 共同代表　鍵谷 誠一**

今年の 4 月 15 日、ドイツでは運転していた残り 3 基の原発が停止され､ついに脱原発が達成されました。核の最終処分や廃炉、ドイツの電力網もつながる欧州全体の脱原発など、まだ多くの課題がありますが､「先進国」のひとつである同国で「脱原発」がついに実現したことは、きわめて大きな意義があります。ドイツは、2030 年までに石炭火力発電からの脱却を予定、2035 年までに再生可能エネルギー 100%をめざしています。

一方、原発事故を起こした日本では、岸田政権がウクライナ戦争によるエネルギー価格高騰や「脱炭素」を理由に GX（グリーントランスフォーメーション）を掲げ、原発産業の保護・育成、原発の新増設・再稼働を推し進めようとしています。また、60 年超えの原発運転を可能にしました。地震大国、火山大国の日本では、60 年超えの原発運転は過酷事故を招きかねません。12 年前の原発事故は環境を広く汚染し、地域や家族を分断し、今なお多くの避難者・被災者が深刻な暮らしを余儀されています。私たちは、原発を推進する政府方針にあらためて強く抗議します。

ドイツの脱原発実現には、ドイツ緑の党の政治的登場と政権与党時の政策が大きな役割を果たし、「倫理委員会」や開かれた市民の議論を通した世論の高まりがそれを後押ししました。私たちは、ドイツの仲間たちの奮闘にも学びながら、多くの脱原発運動や気候危機問題に取組んでおられるみなさんと手を携え、日本の脱原発の実現と気候危機対策の推進に向けた取組を進めたいと思います。共にがんばりましょう。

## とめよう！原発依存社会への暴走
## 一万人集会の開催に敬意を表します！

**立憲民主党**

**立憲民主党 参議院議員　つじもと清美**

岸田政権は科学的根拠も示さず原発稼働 60 年超を認める法改悪を強行しました。

ウクライナでは原発がロシア軍に占拠され、世界中が震撼しました。原発がミサイルで狙われたら狭い日本は壊滅するのではないでしょうか。地域分散型の再生可能エネルギーに転換することがリスクの分散と回避につながります。

立憲民主党は原発に依存しない、自然エネルギー立国を目指してまいります。

本日の集会のご盛会とご参集の皆様のますますのご活躍、ご健勝を祈念いたします。

**前衆議院議員 立憲民主党大阪府第10区総支部長 尾辻かな子**

岸田政権は今年５月、科学的根拠も示さず原発の運転期間が 60 年超を認める改正法を成立させました。原子力発電に依存するのではなく、再生可能エネルギーに転換していくことが望まれます。

本日の集会のご盛会とご参集の皆様の今後ますますのご活躍とご健勝を祈念しメッセージといたします。

## とめよう！原発依存社会への暴走　１万人集会 メッセージ

**れいわ新選組 衆議院議員　大石 あきこ**

集会に参加されたみなさん及び、原発・核施設立地地域で活動を続けるみなさんに、敬意と連帯のメッセージを送ります。

2011　年の福島原発事故から 12 年たちますが、880 トンとも言われる溶け落ちた核燃料（燃料デブリ）の取り出しは、失敗の連続で廃炉作業はまったく目途が立っていません。

取り返しのつかない被害を出して、その後始末もできないわけで、原発は即時停止しかありえません。しかし、岸田政権は、5 月の国会で、GX（グリーントランスフォーメーション）の名のもとに、原発を推進する法律をつくり、老朽原発の再稼働も行いました。

「GX」は、資本の国際競争力のために、エネルギーの供給を原発に依存させるものです。

岸田政権は、原発だけでなく、5 年間で 43 兆円の防衛費増額のための増税プラン、少子化対策のためと社会保障を切り捨て、事実上の消費増税を弱い個人事業主に押し付けるインボイス制度など、国民生活を踏みにじっています。

岸田政権が 11 月に出した経済対策は、物価高で苦しい人々の生活を守るものではなく、どさくさで、原子力について、「十数基の原発の再稼働、次世代革新炉の開発・建設に向けた取組を推進する。」とあります。再稼働も、新規の原発も絶対に許せません。

いま必要なことは、原発に依存しない国内産業への圧倒的な投資です。

この政権と徹底的に闘うことが、私の役目です。国会の中からも、外からも、ともに闘いましょう！

# ●全国で脱原発を闘う仲間からの連帯メッセージ

## 12・3「とめよう！原発依存社会への暴走」1万人集会へのメッセージ

北海道・後志（しりべし）・原発とエネルギーを考える会 共同代表　藤井 俊宏

今日の北海道、特に日本海側は猛吹雪となっています。泊原発はこの日本海に位置しております。冬の季節、今日のような状況で泊原発が事故という事態になれば避難は絶望的な状況になります。その他にもいろいろな問題を抱えている泊原発は再稼働ありきで防潮堤の工事を進めています。岩内・共和両町には工事関係のプレハブ宿舎が何棟も建設されました。この驚くべきムダ金と電気料金に上乗せされることであろうこの風景。もう一つこの後志地区、原発立地所在地に隣接する寿都町（すっつちょう）・神恵内村（かもえないむら）は高レベル放射性廃棄物の最終処分場の文献調査に手をあげました。文献調査開始から 3 年、調査目安とした 2 年から大幅に延びています。町民・村民の分断をつくりだしても政治は知らん顔です。長崎県対馬市では 9 月市長が調査に応募しない旨を発表しました。判断理由として主に 5 つの理由をあげています。

①市民の合意形成が十分でない。
②風評被害への懸念がある。
③文献調査だけの受け入れとはいかない。
④将来の対馬を案じている市民の不安を払拭するまでの計画内容ではなかった。
⑤将来的な想定外の要因による安全性、危険性が排除できなかった。

対馬市長は賢明な判断をしたと思います。NUMO（原子力発電環境整備機構）に対しても質問書を送り、回答結果に疑念を持ったとも聞いております。地質学者有志グループは地殻変動の激しい日本では 10 万年間、地下に封じ込めるのは不可能だと指摘しています。最終処分の前提となる核燃料サイクルは事実上破綻しています。このような状況でも「岸田政権よ！原発を推進するのか！！」 無駄なお金と、無駄な時間。

何としてでもこの「暴走」を止めましょう。

今回の集会のご成功と今後の活動の盛り上がりを祈念しメッセージといたします。

## メッセージ

なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク　中道 雅史

関西電力は、10 月 10 日、「使用済燃料対策ロードマップ」を策定したとし公表、その内容を福井県と福井県議会に説明したという。私はその「ロードマップ」を見て唖然とした。というか笑ってしまった。嘲笑である。

六ヶ所再処理工場に関しての記述。「2024 年度の出来るだけ早い時期の竣工に向け、関西電力を中心に、審査・検査に対応する人材を更に確保」とあり、次に「2025 年度から再処理開始」「2026 年度から使用済燃料受入れ開始」という文言が躍る。六ヶ所再処理工場着工から 30 年、26 回も完工延期を繰り返し、事業主体である日本原燃による 27 回目の延期アナウンスも間近だろうと言われている。今まで、数多くの人材を全国から集めて対応しても、この体たらくなのだ。また万が一完工したとして、再処理の前にしなければならない、溜まっている高レベル放射性廃液のガラス固化という難関が控えている。絵にかいた餅である。

中間貯蔵施設にしても然り。「中間貯蔵施設の他地点を確保し、2030 年頃に操業開始」とある。上関を想定しての物言いだろうが、かの地には強力な反対運動がある。よしんば強引に推し進めても、まず予定地の大規模な伐採を行い更地化しなければならない。3000 トン級の運搬船が着岸でき、100 トン超の容器を吊り下げるクレーンなどを備えた港湾施設、そして建屋への専用道路なども必要なのだ。6 年で出来るというのか。

まさかと思うが、すべてが今現在整う、むつ使用済み核燃料中間貯蔵施設の、一旦は立ち消えになった共同利用化を見据えてはいまいな。たしかに電気事業連合会の池辺和弘会長（九州電力社長、日本原燃会長でもある）が 11 月 6 日、青森県にやってきて共同利用案を巡って次のように述べているが。「貯蔵の柔軟性、補完性ができるのは大事なこと。引き続き国と相談しながら進めたい」「関電の問題があったからではなく、電力全体でできないか」。以前には、「燃料の行き場がなくなり原子力発電が止まると、電力の安定供給や電気料金、カーボンニュ ートラルに影響する。（共同利用は）選択肢が広がるという意味では非常に望ましい」とも言っている。

使用済み核燃料問題は、原子力マフィアにとってアキレス腱なのだ。私たちは全国の仲間と一緒に、ここを突いて闘う。一体の闘いが必要だ。

むつ中間貯蔵施設への使用済み核燃料搬入を阻止する。ましてや共同利用なぞ絶対許さない。六ヶ所再処理工場を稼働させない。核燃サイクルに止めをさす。共に頑張りましょう！

## 女川原発2号機5月再稼働阻止を！

**みやぎ脱原発・風の会　舘脇 章宏**

9 月 28 日、突如東北電力樋口社長が女川原発再稼働を来年 2 月から 5 月に延期することを発表した。延期は 6 回目だ。その理由は、「電線管の火災防護対策工事」のためとしている。私たちは 10 月 11 日に東北電力と交渉をもったが、そこで特に問題なのは、「使用前事業者検査前」だから「基準不適合ではない」とする開き直り、および、規制委員会の直接の指摘ではなく、東北電力が「自主的」に対策をとる形になっている点だ。また、5 月 24 日に「原告は原発事故の具体的根拠を示していない」というとんでもない理由で棄却された女川原発再稼働差し止め訴訟は、原告が直ちに控訴し、10 月 2 日第一回口頭弁論が行われた。裁判長は避難計画の実効性を判断する姿勢を見せており、一審とは異なる判断が期待できる。

一方、10 月 1 日、地元紙『河北新報』に「止めよう！女川原発再稼働」と大書された意見広告が掲載された。紙面では、女川原発が、「3．11」の被災原発であること、これまで何度も基準地震動を超える揺れに襲われてきたこと、仮に再稼働されれば東日本において、また BWR という点でも「3．11」後初めてであることを訴えた。更に、女川原発が立地している場所がかつて「鳴浜」と呼ばれた素晴らしい浜だったこと、廃炉によりその美しい浜を再現したいという想いを込めた。この意見広告の成功を引き継ぎ 5 月再稼働阻止に向けた闘いを推し進める覚悟だ。

## 汚染水海洋投棄 VS「請戸川河口テントひろば」

**「請戸川河口テントひろば」共同代表　黒田 節子**

10．28 ～ 29、福島県浪江町で「請戸川河口テントひろば」のお披露目会をした。「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」としながら、漁民との約束を反故にし、すでに 3 回の汚染水海洋投棄。「タンク容量の限界が迫り、廃炉作業の支障となる」「薄めて流すから影響なし」「海洋放出は廃炉の為には避けて通れない」と政府は説明してきたが、これはウソの上塗りとでもいうべきもの。880 トンのデブリを仮に 1 日 1 キロ取り出したとして、2,500 年かかるというデブリ取り出しの目途もまったく立っていない状況で、今、急いで海洋放出する合理性は逆立ちしても見当たらない。

私たちは一日も早くこの暴挙をストップさせるために、現地で獲れた魚の汚染状況を専門家の協力を得て自ら測ることをしていく。半減期が 1,570 万年のヨウ素 129 など 62 種もの放射性核種を含むデブリ通過後の汚染水と、通常運転時の汚染水を同列化して、「どの国でも流していること」などと信用ならないことばかりの国・東電だから。デブリに直接触れた「汚染水」の放出は世界初。だからこそ、この犯罪性に世界中から反対の声があがっているというのに！

12 年前ここで何があったのか？この堤防を越えて請戸小学校を、集落を襲った津波とはいったいどのようなものだったのか？打ち寄せる波を見つめながら「決して忘れない」との思いを新たにしたのは、各地からのお披露目会参加者全員のものだったに違いない。

## 原発はいつまでも保つと思うな　一時よ

**大熊町在住　木幡 ますみ**

原発事故が起き、放射能が撒き散らされ、原発周辺地域ならびに原発から 30 キロ圏内の住民は避難を余儀なくさせられた。

それから 5 年後、大熊町や双葉郡は建物の解体除染をしたからと言われ、次々と避難解除を進められては来たが、帰る家は無くなり、帰ると決めたのは高齢者ばかり。しかし、入院出来る様な医療機関は無く、帰ることを念じてはいるが、それも未だこれから 5 年後。

原発事故さえ無ければ、多分故郷に対する喪失感は無く、少しは移住されて来ただろうと言われている方々と、町民皆んなで町の復興目指して賑やかに元気になっていたことでしょう。

今は大熊町は廃炉に向けてと、日々多くの問題を抱えながら、ほぼ高齢者の町民と、今まで会ったことの無かった移住者の方々、親に付いて来た子供達、原発で廃炉に向けて働かれている東京電力の社員はじめ下請けの作業員の方々が居住されている。町に住民票がある方々は町から離れた所に住まれ、選挙にしても町民が集まって住われている場所まで行かなければならない。

さらに､大熊町から離れて行くとしても宅地や田畑、山林等が未だあるならば固定資産税が発生して来る。住んでいなくても作物を栽培出来なくても、土地を売ることが出来なければ世帯主が亡くなられた後でも子供の代になられても固定資産税だけは発生して行く。

原子力発電という物自体未だ未だ未完成な物で、自然の勢いには完全に脆く、事故が起きれば直ぐに人は住めない状況で、冷やし続けなければならないと、愚ろかな単純な人間の発想で汚染水の放流問題が起き、住んでいた多くの人々、とくに田や畑、山林で生活を営んでいた多くの人々の生きて行く気持ちを削ぎ落としてしまう。人は単純に原子力発電というものを選択するのではなく、生命や財産を失わないようなエネルギーを選択するべきだ。選択の道を誤ったら 2 度とは戻らない人々の生活を考えて行くべきだ。

## 柏崎刈羽原発再稼働 もっての外！

**さようなら柏崎刈羽原発プロジェクト　小木曽 茂子**

新潟の小木曽です。柏崎刈羽原発 6、7 号機の再稼働が日程に上がってきています。自民党県連の思惑として漏れ聞こえてくるのは、「来年 9 月頃に花角知事が再稼働を容認し、県知事を辞任して、出直し知事選に打って出る。」というものです。歴代の知事が進めてきた技術、避難、健康と生活の 3 つの検証委員会に報告書を出させ、予定されていた総括委員会は開かずに委員を辞めさせ県の事務局が総括報告書を作成しました。

9 月県議会では、「再稼働の経済効果について検証を進める」と発言しています。地元の活性化、財政、雇用にかかるものを専門家に検証してもらうそうですが、県民からは、「事故が起きたときのマイナス効果も検討しなければ意味が無い」との批判も出ています。5 年もかけて検討した 3 つの検討委員会の 300 を超える課題を解決する道も示されてはいません。

県民の側は、1）市民検証委員会をつくって元総括委員長の池内了（さとる）氏を中心に、県内各地でタウンミーティングを開き､県民の声を集約しています。2）県民投票実施の有効性について、県議会議員と議論を始めています。3）県知事選の取り組みも始めなければなりません。

新潟県議会は現在、反対派 14 人、賛成派 39 人といわれていますが、党派の隠れ蓑を外して、住民の意向を反映するよう、働きかけを強めていかねばと考えています。柏崎刈羽原発は 2007 年中越沖地震で 3800 ヵ所もの傷を負った被災原発です。再稼働などもってのほか！金の亡者たちに NO！！を突きつけてやりましょう！

## メッセージ 12月3日集会の成功を期待します

**柏崎刈羽原発絶対反対地元有志 代表　近藤 容人、高田 勝広**

東京電力は柏崎・刈羽原発の 7 号機の再稼働に向けて様々な工事を行ってきている。

東電は柏崎刈羽原発の再稼働に向けて「本社の原発担当部を地元柏崎市に移す」と記者会見を行った。

しかし、工事を進めれば、進めるほど東電の協力企業多さの矛盾、東京電力の地元住民無視、利益優先の体質を露呈している。

最近ではまたしても、個人のスマホを核防御地域に持ち込む不祥事が発生している。該当者の処分も公表されていない。

また、抜打ちの薬物検査で「陽性」反応が出た社員を「陰性」と誤って判定し、防護区域に入域させていたことが、規制委員会の非公開の会合で規制庁から報告されている。

東電の一般企業とは異なる「東電村の常識」に地元住民はあきれるばかりである。

10 月 28 日、29 日避難訓練が行われたが、多くの問題が指摘されている。

自衛隊のエアクッション艇には、砂地の海岸の為高齢者、車椅子の人は乗り込むことが難しいのではないか。ヘリコプターでの避難計画は天候不順の為一部中止になったので、大雪、暴風雨の際は避難できないのではないか。などが問題点として挙げられた。

新潟県は事務方だけでまとめた福島事故検証委員会報告書を作成し、県民に対して、質疑無しの報告会を一方的に強行した。

9 月 24 日には「やめよう原発」集会が 1000 名以上の参加で開催され、元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏の講演を受けた。11 月 12 日には「原発を止めた裁判長」の映写会が開催され 100 名余りが参加した。今後、毎月一回、市民団体主催で原発問題の講演会、映写会が予定されている。

また、今後市民団体での福島事故の検証委員会が開催予定である。

「東電の利益のために、事故がおきる事を心配する不安な生活はごめんだ。原発の再稼働は認めない。我々の人格権を踏みにじるな。原発は廃炉しろ。」こんな気持ちをもって現地で頑張っています。

本日の行動に参加されたみなさんに敬意を表すとともに、行動が成功することを期待いたします。

## 福島は終わっていない、<br>原発推進キャンペーンに抗って脱原発を実現しよう！

**再稼働阻止全国ネットワーク　木村 雅英**

**１　あなたは40年以上経った飛行機を飛ばすか？**

原発は、火力発電のボイラーの換わりに原子炉で核分裂を起してお湯を沸かす非常に複雑な装置。設計当初の計画を無視して運転延長して稼働することは余りに危険。

**２　核燃料プールが破局的事故を招く**

発電後に原子炉から取りだされた使用済み核燃料はプールで 10 年以上冷やし続けないといけない。電気も水も欠かせない。3．11 事故直後の「最悪のシナリオ」とザポリージャ原発の危機が示す様にプールが破局事故を招く。

**３　原発は気候変動対策に全く役立たない**

原発は、クリーンでもグリーンでもない、広島原爆 1000 発分の死の灰を生み、発生熱量の 2 / 3 を海に捨てる海温め装置。

原発は、ウラン採掘から廃炉に至るまで膨大なエネルギーを消費し、再エネを抑制する。

**４　放射能汚染は地球上の総ての生き物を殺傷する環境破壊**

地球は核実験と原発稼働と大事故により放射能汚染が進み、北極圏でその影響が観測された。東電の汚染水海洋投棄も許されない。にも拘らず環境省はモニタリングだけしかしない。

**５　核ゴミ増やして未来世代に死の灰を押しつけるな**

高レベル放射性廃棄物など 10 万年以上放射能をもつ核ゴミをこれ以上増やしてはいけない。六ヶ所再処理施設は動かず核燃料サイクルは破綻、地層処分では 10 万年もたない。

何としても「原発依存社会への暴走」を止めよう。

## 東海第二原発の再稼働ＮＯ！…11.18大集会とデモ<br>首都圏大集会700人強の熱気、神保町デモ・長い隊列とノボリ旗たくさん

**とめよう！東海第二原発首都圏連絡会 世話人、たんぽぽ舎 共同代表　柳田 真**

● 2023 年 11 月 18 日（土）は、うれしい日となった。会場の日本教育会館一ツ橋ホール（定員 802 名）にぞくぞくと人が集まる。当初予想は 300 人あつまるかな？とみんな心配したが、結果は 700 人を超えた。スタッフたちが全員で努力して、あちら、こちらで学習会や小集会でビラをまき、前売り券（800 円）を広めた成果だ。有料なのに、あれだけ集まってくれたと講師の 1 人は感想を述べた。みんな、うなづく。

●集会内容も良かった。後で聞くと、参加者から“来て良かった”の声を多く聞いた。

・小出裕章さんー原発は危険な機械。一刻も早く全廃を。
・鴨下美和さんー福島原発被害東京訴訟を闘う。親子 4 人苦難の中で、活動を続ける。
・村上達也前東海村村長－反対運動に期待する、ユーモアたっぷりの話。
・江尻加那さん（茨城県議）－津波を防ぐ大事な防潮堤工事で「鉄筋カゴが海底（地盤）に届いていない」等の不良工事を批判。
・披田信一郎さんー水戸地裁の「運転差し止め」勝利を、東京高裁でも勝ち取ろう。
・志田文広さんー「とめよう！東海第二原発首都圏連絡会」の活動と今後の行動提起。

壇上に、各地でがんばって、「東海第二原発 NO ！」で闘っている人びと・グループが、横断幕やノボリ旗をもってならんだ。広い壇上が一杯となり、各団体 2 分の短い時間ながら簡潔にアピール、拍手が鳴り響いた。

●東京のド真ん中、千代田区神田神保町の教育会館よこに、長～いデモ隊列がならぶ。宣伝カーを先頭に 400 人弱の隊列が、「東海第二原発 NO ！」、「防潮堤の失敗工事 NO ！」と、声を挙げる。通行人の視線も好意

的だ。30 分ほどのデモ隊列が明治大学近くで流れ解散。みんなノボリ旗や横断幕を片付け、三々五々、駅や近くの飲み屋さんへ散っていった。最後に残っていた神田警察署員数人に「ごくろうさん」とあいさつし、私たちも 2 次会の会場へ急いだ。今日のビールはおいしいだろうなあ。

## とめよう！原発依存社会への暴走 1万人集会様

**浜岡原発を考える静岡ネットワーク 代表　鈴木 卓馬**

岸田自公政権のあらゆる面での暴走を停めねばならない。とりわけ原発回帰問題では許すことが出来ない。ロシアのウクライナ侵攻に端を発する「エネルギー危機」を思いの限り煽り、世論操作を行っている。

毎年周辺市の行っている浜岡原発の周辺市の世論調査では、「再稼働容認」50 %に達するまでになり、憂慮する事態を迎えた。ただ、ここでのアンケート質問は、「安全が確認されれば」「再稼働 OK」との答えである。しかし、規制委員会は、「審査合格証」は出しても「安全を保証するものではない」との見解は今も変わっていない。

「この世に安全な原発は存在しない」。そして経済合理性をも欠き、今や原発は何のメリットもない。この社会の大きな邪魔者となっている。岸田自公政権の「暴走」と名付けるにふさわしい。

この「暴走」を、我々は決して許さない。共に頑張ろう。

## 連帯メッセージ

**志賀原発を廃炉に！訴訟 原告団 団長　北野 進**

「原発依存社会」に向かって暴走する岸田政権への怒りを結集した 1 万人集会に参加の皆さまに連帯のメッセージを送らせていただきます。

全国各地で原発の 60 年超運転への不安と批判が高まり、国内外で放射能汚染水放出への抗議の声が広まり、さらに原発の後始末問題の行き詰まりがあらわになっています。こうした中、北陸電力は岸田政権の原発回帰路線に乗り遅れまいと、志賀原発の 2026 年再稼働に向けてギアを上げています。

昨年度 937 億円という過去最悪の赤字を記録した北電は、6 月から規制料金を 39．7 %値上げしました。値上げした大手 7 社の中で最大の値上げ幅です。過大な値上げだと私たちは指摘してきましたが、予想通り今年度上半期だけで実に 700 億円の経常黒字です。多くの市民が物価高で苦しむ中、当然速やかに値下げに切り替えるべきところ、志賀再稼働に向け多額の財源確保に迫られる松田社長は「投資に注力したい」と値下げの考えはないことを明らかにしました。規制委の審査会合も、今年 3 月の敷地内断層問題の「決着」を受けて開催ペースが上がっています。

これに対して私たちは金沢地裁での差止め訴訟、富山地裁での株主差止め訴訟、そして毎月の街宣活動に加え、8 月には汚染水問題での学習会と街頭行動、11 月には原子力防災訓練に対する監視行動と住民アンケート、抗議声明発表などを通じて志賀原発の再稼働阻止や岸田政権の原子力政策批判の声を上げてきました。

関西の皆さんの力強く、創意工夫に満ちたたたかいには及びませんが、皆さんの取り組みに学びながら、たたかいを前進させていきます。共に頑張りましょう！

## 連帯メッセージ

**さよなら原発・ぎふ　近藤 ゆり子**

私たち「さよなら原発・ぎふ」は、2011 年 6 月から、3 ヶ月に一度、集会とパレードを行ってきました。来週 12 月 10 日には 49 回目の集会＆パレードを行います。また、来年 2 月 25 日には、“原発をとめた裁判長”樋口英明･元裁判長を岐阜にお招きして、映画と講演の会を開催します。

11 月 1 日、川内原発 1･2 号機の運転延長が認可されました。40 年超の老朽原発の運転が“当たり前”にされています。新増設には時間もお金もかかるので、手っ取り早く老朽原発を次々と再稼動させることで原発依存社会への回帰を急いでいるようです、許せません。

岐阜県は若狭の原発の「被害地元」です。2012 年 3 月、美浜原発の前の水晶浜から 1000 個の風船を飛ば

した実験では、84 %の風船が岐阜県内で拾われました。同年 9 月に岐阜県が公表した「敦賀原発事故想定時の放射性物質拡散シミュレーション結果」では、最悪、大垣市の中心部で年間 110 mSv、県庁所在地・岐阜市とその周辺住民の過半数が 20 mSv ～ 100 mSv という汚染に曝されるという衝撃的な数値が出ています。しかし県民の多くはこのことを知りません。具体的な住民避難計画もありません。岐阜県では原発に関する報道は乏しく、なかなか議論も起こりません。

それでもこの岐阜の地から、私たちは「原発いらない！老朽原発うごかすな！」の声を上げ続けていきます。原発ゼロに向けて、ともに頑張りましょう！

## 高浜1，2号機と美浜3号機の<br>運転期間延長認可取り消し訴訟 いよいよ大詰め

老朽原発40年廃炉訴訟市民の会　草地 妙子

福井県の老朽原発が事故を起こしたらどうなるか。どこに逃げる？ どうやって？ そんな心配をしている人には、こう言います。「そんな悠長なことは言っていられない」と。原子炉圧力容器の破損という、最大最悪の想定が現実となれば、この国は「終わり」です。

全て根こそぎ失われるというのに「どうするか」なんて選択肢があり得るでしょうか。

しかし、関電にも原子力規制委員会にも、そのような危機感は全くありません。規制委の審査は、電力会社の評価を鵜呑みにする形だけのもの、自ら定めたルールさえ都合が悪ければ無視できるマインドを持つ、もはや人間性を問わずにはいられません。

また、核燃サイクルは破綻し、高レベル放射性廃棄物処分の目途も立っていない中で、使用済み核燃料の保管長期化・保管量増大を招いていますが、この問題に対して審査基準すら定めずに原発の設置と運転延長の許認可を出しています。

名古屋地裁への提訴から 7 年半が経ちました。来年の 4/ 26 と 5 / 10 には証人尋問が予定され、その後は、いよいよ最終弁論です。裁判所には、何を守るための規制か、誰の立場に立って判断をすべきか、今こそ強く訴えていかなければなりません。

「老朽原発うごかすな」の声が何より勝訴への後押しとなります。皆様と共に声をあげていきます。ご一緒に頑張りましょう。

## 使用済燃料の行き場はないぞ！<br>--関電は福井県民との約束を守り、老朽原発の運転停止を--

オール福井反原発連絡会　中嶌 哲演 《事務局》林 広員、宮下 正一、山本 雅彦
原子力発電に反対する福井県民会議、福井から原発を止める裁判の会
サヨナラ原発福井ネットワーク、　原発住民運動福井・嶺南センター
原発問題住民運動福井連絡会、　福井の老朽原発訴訟の会

杉本達治福井県知事は 10 月 13 日、西村康稔経済産業大臣と関西電力（以下、関電）の森望社長と会談し、関電が示した「使用済燃料対策ロードマップ」や国の姿勢について「一定の前進があった」と述べ容認する考えを表明しました。

これに先立ち、関電と国は 10 日、福井県と県議会に対して使用済燃料の搬出の工程表（ロードマップ）を示し、

①青森県六ヶ所村の再処理工場の 2024 年の完成に向けて、審査が円滑に進むように取り組むこと、

② 2027 年度から、フランスへ MOX 使用済燃料の搬出を始めること、

③中間貯蔵施設への搬出に向けて、原発の敷地内に使用済燃料を一時保管する「乾式貯蔵施設」の設置を検討すること

を説明しています。

しかし、①は、施設が完成して再処理を行うと、プルトニウムが大幅に増えることになります。原子力基本法には「利用目的のないプルトニウムは持たない」とする定めがあるため、再処理は、プルサーマルによる消費量程度しかできません。

②は、日本の日本原燃・日本原子力研究開発機構がフランスのオラノ社に 2030 年以降、「再処理実証研究」を委託。使用済燃料再処理機構が同オラノ社に再処理委託を求めていますが、計画は不透明です。

③は、これまでの政策の大転換で、①と②が実質的に実行不可能とみられる中、原発サイト内に「乾式貯蔵施設」を設置するという新たなもので、原発の稼働を継続させるための「原発延命策」です。

しかも、こうした真相を隠したまま、地元住民から

の声を聞く「住民説明会」の開催もなく、老朽原発の地元の高浜町議会、美浜町議会で審議もされず、県議会で本会議を開いて審議もしないまま、歴代の知事から引き継いだ政策について慎重に判断する手順も踏まず、容認の決断を下したことは、県民無視の暴挙と言わざるを得ません。

よって私たちは、関電の示した「使用済燃料対策ロードマップ」について、知事容認の撤回を求めるとともに、県民の不安、疑念を解消するために、県民説明会の開催を求めます。

また 2021 年、関電は県に、「2023 年末までに中間貯蔵施設の県外候補地を確定させる。できなければ高浜原発 1、2 号機と美浜原発 3 号機は運転しない」と約束しており、県と関電に約束を守るよう求めます。

更に、高浜原発の事故を想定し 10 月 20 日～ 21 日に行われた福井県原子力総合防災訓練は、原発から 30 キロ圏内にある 1 市 3 町の住民が県内外の広域に避難し、除染スクリーニングや避難所での受付などの手順・マニュアルを確かめました。しかし、今回も悪天候のため住民搬送訓練が一部中止になるなど実効性をたかめる点で不安や疑念の県民の声が多くあります。福井県の避難計画は、避難場所や経路に他の原発周辺エリアが含まれ、巨大地震での同時多発的原発事故を想定したルートが策定されておらず避難計画の設定に実効性がありません。国や規制委員会、関電に対し、実効性ある避難計画を策定すること、避難訓練で県民が安全に避難できることが確認されることなしに、原発の稼働を認めないよう求めます。

## 原子カムラの提灯持ち<br>高浜町長の広報番組「YUTAKA CHANNEL」

ふるさとを守る高浜・おおいの会（高浜町） 東山 幸弘

野瀬豊町長が高浜町のホームページに町の広報番組「YUTAKA CHANNEL」の第 18 弾「高浜発電所・全機再稼働 」---今後の課題「使用済燃料対策」と「核燃料サイクル」---を CATV 放映と YouTube にアップしています。

町長は、運転すれば増えていく使用済み燃料を再処理する六ヶ所村の工場が操業できず、それまで保管するための中間貯蔵施設をつくれる場所がなく、また、再処理したとしても出てくる高レベル廃棄物処分地が決まらない、現状を説明して立地市町に住むものとして「わが事」、「自分事」として捉える責任がある、と説き、「そして今後、その使用済み燃料を日本で一番多く発生させる町の住民であることを私たちは自覚する必要があります。」と発言して終わります。もう「原発と心中する以外にない」と言われているようです。

10 月 10 日、関電に「使用済燃料対策ロードマップ」をいきなり示され、町民はもとより町会議員さえ知らせないまま、「原発敷地内・乾式貯蔵」を飲まされたことに、いささかの弁明もなく、岸田政権の原発依存政策への前のめり姿勢を補強するものでしかありません。

そもそも原子力発電を開始した 1960 年代後半は「高度経済発展」の時期で「エネルギー資源のない日本は繰り返し利用できるウランによる発電」をおこなって、「核燃料サイクル」というエネルギー資源の自立を目指したはずであった。が、再処理施設が稼働せず、再処理して得られるプルトニウムを使用する高速増殖炉が進展せず、「サイクル」そのものが破綻している現状を見ず、いまだに「エネルギー資源のない日本」といって、原発稼働に固執しています。地震大国、津波大国、火山列島に原発はいりません。日本を破滅に導きかねないことはフクシマで証明されたはずです。原発の時代は終わったのです。

## 安心して暮らせる社会に切り替えるために<br>全ての原発を廃炉に！

さよなら島根原発ネットワーク 芦原 康江

岸田政権は、福島原発事故から 12 年という時間が経過し、新規制基準に対応するために巨額の投資を行ってきた電力会社の利益確保を優先させるため、60 年越えの運転を認め、原発推進に舵を切りました。

しかし、どのように点検管理を行おうと、大量の放射線照射、高温高圧という過酷な環境下にある原発が 60 年を超えて稼働するのは、事故のリスクを高めてしまいます。その結果は重大事故につながっていき、多くの住民が犠牲を強いられてしまいます。

国、電力会社を含む全ての人において、二度と福島のような事故と犠牲を繰り返してはならないことは、異論などあるはずがありません。現在において、政府と電力会社が「原発推進」に方向転換していくのは、その誓いを裏切る行為でしかありません。

私達住民は何度でも言わなければなりません。いわれなき被ばくを強いられ、くらしを根こそぎ奪われるリスクを断固として拒絶します。

現在、中国電力は、島根原発 2 号機を 2024 年 8 月に再稼働させようとしています。また、山口県上関町に「使用済み核燃料中間貯蔵施設」を建設することを公表し、廃炉となった 1 号機の使用済み核燃料搬出もままならなくなっています。

核燃料サイクルの行詰りが、原発の稼働を困難な状況に追い詰める大きな要因になろうとしています。私たちは、これ以上核のゴミを作らないためにも、島根原発 2 号機の再稼働を止めたいと思います。

## 自然を活かした町作りで<br>原発も中間貯蔵施設もない上関町へ！！

**上関の自然を守る会 共同代表　高島 美登里**

12・3「とめよう！ 原発依存社会への暴走」1 万人集会に結集された皆さんに上関より連帯メッセージを送ります。

8 月 2 日、中電が関電との共同経営による誘致を提案したことで上関町内には激震が走りました。西町長は臨時議会での意見表明という一方的な形で、たった 16 日間で結論を下しました。なぜこれほどまでに急ぐのか？　狙いが関電の老朽原発再稼動にあることは明明白白です。施設の安全性、地震や津波など過酷事故の危険性、最終処分場になる可能性など山積する課題の検討もない暴挙に町内はもとより周辺市町でも怒りの声が渦巻いています。

上関は「奇跡の海」と呼ばれ、カンムリウミスズメなど世界的な希少生物が多数生息し、環境省の生物多様性の観点から重要な海域にも指定されています。豊かな自然と漁業文化を活かし核の交付金に頼らない町作りこそが未来の子どもたちへのかけがえのない贈り物です。中電は原発建設にあたり「上関は何もない所。だから原発しかない！」という劣等感を町民の心に植え付けてきました。原発や中間貯蔵施設に反対することは故郷への誇りと愛情を取り戻す闘いでもあります。闘いはこれからです。

私たちは「原発 NO ！中間貯蔵施設 NO ！」と上関町民自らが決断するまで地道に粘り強く闘っていく所存です。共に頑張りましょう！!

## 連帯のメッセージ

**伊方から原発をなくす会　名出 真一**

福井で、関西で反原発の行動を続けている仲間の皆さんに連帯のメッセージを送ります。

岸田自公政権と、利権にありつこうとする維新、国民は福島第一原発事故から何も学ぶことなく原発依存社会への道をアクセル全開でバックしています。行き着く先は衝突大破しかありません。

戦後、山を壊し、海を殺し、農漁業を破壊してきました。そして都市地域での建設や工場での安い労働力として地方の人材を奪い取り。地方に破局的な過疎化を引き起こしました。そこに札束と嘘で迷惑施設でしかない原発を押し付けてきました。その過程はおよそ民主主義とはかけ離れたものでした。地域を分断し、家族のつながりさえも壊して、命まで奪って原発建設は行われてきました。その結末が福島第一原発事故です。私たちはこのことを決して忘れてはならないのではないでしょうか。福島第一原発は事故の後始末の目処すらたたず、放射能まみれの汚染水は他に処理方法があるにも関わらず最も安易な方向に走っています。これこそが電力資本（電力だけでなく資本）の百年前から変わらない正体ではないでしょうか。使用済み燃料も核のゴミも行き先は決まらないままゴミを出し続ける。30 年 40 年先のことなど知らない。ましてや何万年後のことなどどうでもいいと言わんばかりの無責任な企業・政治の体質には怒りが止まりません。

労働者、市民、住民の命を軽視して原子力政策を強行することは絶対に許さない！全ての原発の即時停止のために全国の力を結集していきましょう！！

## 原発はやめるほかない！

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会　石丸 初美

福島原発事故を受けて、国の指針に「UPZ 外も UPZ 同様になれば一時移転・屋内退避となる。UPZ 外の自治体も対策を講じること」と定められています。先日 11 月 22 日、佐賀市へ「原発避難問題について具体的に広報して欲しい」と質問要請書を提出しました。市民は政府の垂れ流し情報のみに左右されて、私の友人は「国がそんな酷い事まではするはずがない」と、国の思う壺にはまっています。

ある中学生徒から「修学旅行に玄海原発に行く。反対している人の話を聞きたい」と連絡を受けました。子どもたちに話す責任は重大で事実を伝えるのはもちろんですが、伝わったか心配でした。後日全員（約 20 名）から感想文が送ってきました。一部です。

・「今までなぜ知らなかったんだろう。今すぐやめてほしい」悔しい思いになりました。
・「知ってしまったからにはこれから何か活動していけたらいいな」
・「話を聞いてからいろいろなところで立ち止まって考えるようになった。本当に考えることは大切だ」
・「私達中学生に本気になって伝えてくれたことが何より嬉しかった。心のおくそこまで伝わってきました。」

子どもたちは原発はやめてもらいたいと訴えています。大人が声をあげないわけにはいかないと思いました。伝える事が大事だと思いました。子どもたちの心の片すみに少しでも残ってくれたらと思います。

また女子高校生で、私たちの話を聞いて「福島原発事故を何も知らなかった。今知ったことが自分でびっくりしている」という事でした。12 年という月日が経てば、この国の重大な出来事（事件）さえも知らない世代になるのだと実感しました。

私達は玄海原発の裁判を福岡高裁で闘いながら、全国のみなさんとともに声をあげ続けていきます。

## 川内原発現地、鹿児島からのメッセージ

ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会 共同代表　向原 祥隆

鹿児島の川内原発 1、2 号機は、まもなく寿命の 40 年を迎えます。これに対し、九州電力は、あろうことか 20 年運転延長を目論んでいます。

私たちは、この間、県民投票条例の直接請求に取り組み、6 月、7 月の 2 カ月間で法定数を大幅に超える 5 万 4000 筆を集めることが出来ました。法定数は有権者の 50 分の 1 の 2 万 6000 筆ですから、ほぼ 2 倍集めたことになります。

10 月 23 日から 26 日の臨時県議会では、多数を占める自民、公明議員の反対多数で、県民投票条例は否決されました。しかし、私たちの抵抗運動は大きな波紋を投げかけたと思います。署名運動を通じて、改めて原発の危険性を、県民自ら問い直す機会になり、塩田県知事、および自民、公明の議員たちが、ヒラメのように国や党中央の機嫌を伺い、県民を一切顧みないという姿勢を、大きくあぶり出すことが出来ました。

地方自治法 74 条に基づいた県民投票条例の直接請求は、県政の重要問題としてマスコミ各社も大きく取り上げました。地元紙である南日本新聞は 1 面トップで 5 回報道しました。小さな動きでも、ことあるたびに大きく紙面を割きました。

来年、7 月には知事選挙が待っています。3 年後には県議選。この運動が、どう形を作っていくのか、大いに期待しましょう。

## 【参考】関西電力 闇歴史

Webサイト：京都脱原発原告団 ＞ 市民運動の紹介 ＞ 関西電力 闇歴史（←検索可）

**◆109◆**【11/20 新規】関電の “安全無視文化” は、1980 年代には既に定着！
もうけ優先の結果、関電の原発で何が起こっていたか！
(1) 一次冷却水のポンプが破壊寸前！――高浜原発、大飯原発
(2) 放射能汚染水漏れを放置――美浜原発、大飯原発
(3) 緊急停止回路を切っての曲芸運転！――美浜原発

**◆108◆**【10/26 新規】関電などによるバイオマス発電事業が破綻（2022 年 12 月）
結局、発電事業は大東建託に事業譲渡（2023 年 7 月）
関電の電源構成→原発は 20.3 %だが、太陽光 0.3 %、地熱、風力、バイオマスは各 0.0 %
【付 RE100 】【付 関電の電源構成】

**◆107◆**【10/2 新規】関西電力送配電（株）、インバランス料金を複数回、誤算定
電力・ガス取引監視等委員会が報告を公表（2023/7/28）
誤算定の原因は、マニュアルの不備など事務の正確性欠如
【付 インバランス料金】

**◆106◆**【9/27 新規】中性子照射脆化の進み具合をみるのに、関電は、規制委の規格にない方法で測定！
福井県には「規格にない図（WOL 試験片）」を示していながら（2016 年）、
訴訟では「規格にある図（CT 試験片）」を「イメージ図」として提示！（2021 年）
老朽原発 40 年廃炉訴訟（名古屋地裁）で明らかに！

**◆105◆**【8/13 新規】カルテル問題で、関電が経産大臣に業務改善計画を提出（2023 年 8 月 10 日）
「地域独占の意識からぬけず、自由化の趣旨を理解していなかった。
他人任せ、上意下達の組織風土に問題があった」

**◆104◆**【8/2 新規】被ばく労働に頼らないと動かない原発の非人間性、非倫理性を告発
『原発ジプシー』『原子炉被曝日記』

**◆103◆**【7/22 新規】大飯 1、2 号機の廃炉によるクリアランス金属を弁に加工し、大飯 3、4 号機で使用と発表
放射性廃棄物で循環型社会を形成？！（2023 年 7 月）

**◆102◆**【7/8 新規】大手電力が新電力つぶしの深刻な不正行為！
公取委が電取委に、差別対価と市場操作の情報を提供
【注意】この不正行為は、カルテルに関連した関西電力、中部電力、中国電力、九州電力のいずれか、又は複数社によるもので、どの社に該当するのかは、現状（2023 年 6 月）では不明です。

**◆101◆**【7/8 新規】40 年超え老朽原発の高浜原発 1、2 号機は、とっても危険！
もうすぐ 40 年の高浜原発 3、4 号機でもトラブル続き！
老朽原発うごかすな！（2023 年 7 月）
【付 原発を動かしてはいけない 10 のわけ】

**◆100◆**【7/1 新規】エネ庁サイトの再エネ業者情報が大手電力から不正閲覧されていた件で、個人情報保護委員会が、大手電力とエネ庁に行政指導！（2023/6/29）

**◆099◆** 関電は使用済み核燃料のごく一部をフランスに搬出すると発表！（2023/6/12）
フランスでの実証研究は、中間貯蔵施設の県外設置と「同等」と主張！
フランスと技術協定を結んだ経産省も、関電を支援！
詭弁、出まかせ、居直り、ごまかし、その場しのぎ、傲慢

**◆098◆**【9/17 追記】原発最優先で再エネは後回しの関電！
関電エリアで初めての再エネ出力制御（2023/6/4）
原発はフル稼働で、再エネ電気はストップ !!!（＞＜）!!!
関電は大儲けで、再エネ新電力は苦境に
【付 需給バランス制約による出力制御】【付 関電の供給力能力は約 3000 万 kW】

# 12.3「とめよう！原発依存社会への暴走 1万人集会」
# 集会宣言（案）

福島原発事故から 12 年半が経ちましたが、この事故は、原発は現在科学技術で制御できる装置でなく、重大事故を起こせば、生活基盤を根底から奪い去ることを、大きな犠牲の上に教えました。

それでも、政府や電力会社などの原発推進勢力は、ウクライナ紛争によるエネルギー逼迫や炭酸ガス削減を口実にして、原発の稼働に奔走しています。

岸田政権は、本年 5 月末の通常国会で、5 つの「原発推進関連法」を束ねて成立させました。原発の 60 年超え運転を可能にし、原発の運転期間の判断を経産省に委ね、原子力基本法に「原発推進を国の責務とする」の一項を加えました。また、8 月 24 日には、福島原発でたまり続ける放射能汚染水の太平洋への放出を開始しました。「関係者の理解なしには処分しない」とする約束を踏みにじった暴挙です。

このように、「民意を蹂躙する」岸田政権が、「原発依存社会」に向かって暴走しているのです。

一方、政権の意をくむ関電は、運転開始後 50 年近くになる、危険極まりない老朽原発・高浜 1、2 号機、美浜 3 号機の全てを 9 月 15 日までに再稼働させました。

その関電は「使用済み核燃料の中間貯蔵地を本年末までに福井県外に探す。探せなければ老朽原発を停止する」とした約束を、「保有する使用済み核燃料のわずか 5 %のフランスへの搬出」や「上関での中間貯蔵地建設調査」などの小手先の奇策と詭弁を弄して、反古にしようとしています。何としても当初の約束を履行させ、全老朽原発を廃炉に追い込まなければなりません。

なお、原発運転で発生する使用済み核燃料の放射線量や発熱量は、取り出し直後には膨大ですから、一定期間、燃料プールで水冷保管しなければなりません。したがって、燃料プールが満杯になれば、原発は運転できなくなります。そのため、政府や電力会社は、発熱量が減少した使用済み核燃料を、プールから取り出して乾式貯蔵することによって、プールに空きを作り、原発運転の継続を可能にしようとしています。その燃料プールは極めて脆弱です。とくに、新しい使用済み核燃料の入った燃料プールが崩壊すれば、大惨事に至ります。

今、電気は足りています。余っています。過酷事故を起こしかねない原発、処理処分法も行き場もなく、何万年もの保管を要する、使用済み核燃料を発生させる原発の運転は百害あって一利なしです。

そもそも、岸田政権や電力会社の「原発依存社会」への暴走は、脱原発の流れに乗り遅れた失敗の政策を取り繕うためです。もし、福島原発事故以降の政権や電力会社が事故の教訓を生かして、原発ときっぱり決別し、自然エネルギーに切り替える政策をとっていたなら、今頃、化石燃料や、核エネルギーに依存することなく、電気を供給できたでしょう。自らの失政を反省せず、更なる原発推進へと暴走する政府と電力会社を厳しく糾弾し、自然エネルギーへの政策転換を求めましょう。

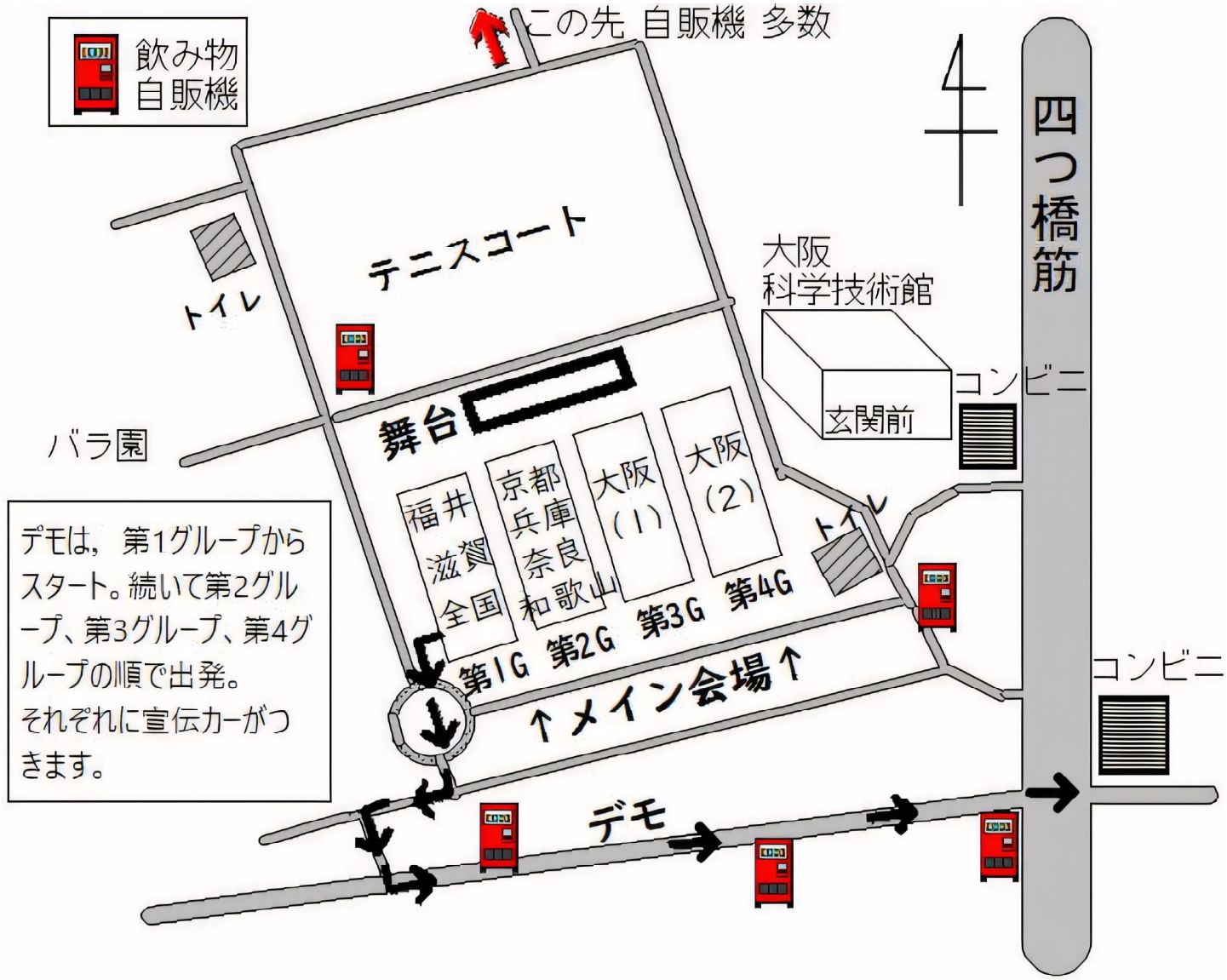
5 月に成立した「原発推進関連法」の多くは、未だに施行されていません。したがって、私たちの目に見え、耳に聞こえる行動によって、骨抜きに出来、実行不能に追い込むことも出来ます。

本日、うつぼ公園に結集した私たちは、原発全廃の大きなうねりを出現させ、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会に向かって、力強く前進することを宣言します。

2023年12月3日

**「とめよう！原発依存社会への暴走 1万人集会」参加者一同**

## 会場とデモの案内




◆ **デモの出発**…最初に**第１グループ（福井、滋賀、全国）**が会場から出てください。
その後に、**第２グループ（京都、兵庫、奈良、和歌山）**、**第３グループ（大阪１）**が出ます。
**第４グループ（大阪２）**は、最後に会場から出るようにしてください。


**老朽原発うごかすな！実行委員会**
連絡先：木原壯林（電話 090－1965－7102）

2023 年 12 月 3 日